１．研修機関情報

（１）法人情報

①法人格・法人名称・住所等
株式会社グレート　石川県金沢市本町 1-5-1　リファーレ１Ｆ

②代表者名、研修事業担当理事・取締役名
代表取締役　川島康将

（２）研修機関情報

①事業所名称・住所等
株式会社グレート　石川県金沢市本町 1-5-1　リファーレ１Ｆ

②理念
介護サービスを実践するために必要な基本的な知識・技術を習得するとともに、職業倫理・態度を養成し、さらなるキャリア向上を目指す十分な意欲向上心を持って、福祉施設・病院等での介護業務および訪問介護サービス業務、その他の高齢者・障害者福祉サービスに関する業務で活躍しうる人材の養成を目的とする。

③研修施設、設備

名　　称	株式会社グレート　野々市研修センター	
所 在 地	野々市市御経塚２－２５９　ヒューゲルビル２Ｆ	
面　　積	51.03 ㎡	
収容人員	１５名	
使用備品一　　覧	福祉用具等の名称	数　量
	介護用ベッド	２台
	回転式介助バー	２台
	車椅子	２台
	ポータブルトイレ	２台
	尿器	２個
	おまる（差し込み便器）	２個
	杖	２本
	デジタル血圧計	２台
	体温計	３個
	食事介助用食器・スプーン・コップ	２セット
	整容・清潔保持に使用の用具 （洗面器・バケツ・くし・ドライヤー）	２セット

２．研修事業情報

（１）研修の概要

①学則

学　　則

１．目的

介護サービスを実践するために必要な基本的な知識・技術を習得するとともに、職業倫理・態度を養成し、さらなるキャリア向上を目指す十分な意欲向上心を持って、福祉施設・病院等での介護業務および訪問介護サービス業務、その他の高齢者・障害者福祉サービスに関する業務で活躍しうる人材の養成を目的とする。

２．実施主体

（１）所 在 地：石川県金沢市本町 1-5-1　リファーレ 1F
（TEL 番号：076-262-9010　　FAX 番号：076-263-7227 ）

（２）法 人 名：株式会社グレート

（３）代表者名：代表取締役　川島　康将

３．研修事業の名称

「介護職員初任者研修 ステップアッププログラム ４月コース」とする。

４．実施場所

株式会社グレート　野々市研修センター
所在地　：　石川県野々市市御経塚２－２５９　ヒューゲルビル２Ｆ

５．研修期間

令和４年４月２１日～令和４年６月３日

６．カリキュラムおよび担当講師名

別紙のとおり実施する。

７．受講対象者および定員

（１） 原則として以下の要件を満たす方とする。

① 介護職を目指しているか、または介護に関心・意欲を持つ方
② 訓練の規約に従い受講が可能な方
③ 当社と雇用契約を締結しており、介護の知識・技能を習得することで職業能力の開発及び向上が見込める方
④ 石川県内に在住で、無理なく通学可能な方

（２）定員は１５名とする。

８．研修参加費用

事業内訓練としての開講につき、受講料・テキスト費は無料とする

９．受講手続き

受講申込書に必要事項を記入し、弊社本社または研修実施場所にて面談の上、提出するものとする。その際、規約および詳細についての説明を行う。

１０．本人確認の方法

受講者に対し、受講申込受付時または初回の講義時に下記の方法により本人確認を行うとともに、確認書類の写しを保管する。
＜運転免許証・パスポート・学生証・国家資格等の免許証または登録証・健康保険証・
年金手帳・戸籍謄本・戸籍抄本・住民票・住民基本台帳カード・在留カード　等の
いずれかの提示＞

１１．補講の実施方法および費用

通学課程（講義・演習）の一部を欠席した場合もしくは通信課程を含む知識・技術の習得が十分でないと認められる場合は、該当者のみを対象とした個別の講義・演習により補講を行う。なお、補講の費用は無料とする。ただし、欠席した時間数が石川県の定める時間数を超えない範囲については、課題の提出に変える場合がある。
また、欠席した場合について、弊社がほぼ同時期に同一研修内容で別日程のコースを開講している場合は、該当科目のみ別日程のコースで振替受講できるものとする。その場合も費用は無料とする。ただし、振替受講により、一部科目の受講日や修了テスト実施日を変更する場合がある。

１２．研修修了の認定方法

次の条件をいずれも満たした者を修了者として認定する。

①　通信課程における全ての課題を提出し、添削指導を受けた者

②通学課程における全ての科目・時間を受講した者
（※欠席等に関しては、１１．に記載の要件を満たした者）

③次の評価基準を満たした者
- 修了評価テスト（筆記）において、概ね７０％以上得点した者
- 介護技術演習内容の個別評価において、概ね７０％以上の習得度を満たした者
- 受講態度および意欲が、修了に値すると認められる者

②　研修目標・時間数・講師名

科　　目　　名	実施日	時間数	講 師 氏 名	講師要件該当資格	研修実施会場
１．職務の理解					
１－１					
多様なサービスの理解	4/21	3	宮本　志麻	介護福祉士	
１－２					
介護職の仕事内容や働く現場の理解	4/21	3	宮本　志麻	介護福祉士	
２．介護における尊厳の保持・自立支援					
２－１					
人権と尊厳を支える介護	5/9	3	宮本　志麻	介護福祉士	
２－２					
自立に向けた介護	5/9	3	宮本　志麻	介護福祉士	(株)グレート野々市研修センターD室
３．介護の基本					
３－１					
介護職の役割、専門性と多職種との連携	4/22	1.5	宮本　志麻	介護福祉士	
３－２					
介護職の職業倫理	4/22	1.5	宮本　志麻	介護福祉士	
３－３					
介護における安全の確保とﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	4/22	1.5	宮本　志麻	介護福祉士	
３－４					
介護職の安全	4/22	1.5	宮本　志麻	介護福祉士	
４．介護・福祉サービスの理解と医療との連携					
４－１					
介護保険制度	5/13	2	宮森　弘美	看護師	
４－２					
医療との連携とリハビリテーション	5/13	2	宮森　弘美	看護師	
４－３					
障害者自立支援制度およびその他制度	5/13	2	宮森　弘美	看護師	

５．介護におけるコミュニケーション技術					
５－１ 介護におけるコミュニケーション	4/26	3	伊藤　愛生	介護福祉士	
５－２ 介護におけるチームのコミュニケーション	4/26	3	伊藤　愛生	介護福祉士	
６．老化の理解					
６－１ 老化に伴うこころとからだの変化と日常	5/19	3	宮森　弘美	看護師	(株)グレート野々市研修センターD室
６－２ 高齢者と健康	5/19	3	宮森　弘美	看護師	
７．認知症の理解					
７－１ 認知症を取り巻く状況	5/12	1.5	山口　真紀	介護福祉士	
７－２ 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	5/12	1.5	山口　真紀	介護福祉士	
７－３ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常	5/12	1.5	山口　真紀	介護福祉士	
７－４ 家族への支援	5/12	1.5	山口　真紀	介護福祉士	
８．障害の理解					
８－１ 障害の基礎的理解	5/23	1	李沢　佳奈	介護福祉士	
８－２ 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	5/23	1	李沢　佳奈	介護福祉士	
８－３ 家族の心理、かかわり支援の理解	5/23	1	李沢　佳奈	介護福祉士	
９．こころとからだのしくみと生活支援技術					

②生活支援技術の講義・演習 ９－１ 介護の基本的な考え方	4/25	2	坂口　紀子	看護師	
９－２ 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4/25	2	坂口　紀子	看護師	
９－３ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4/25	2	坂口　紀子	看護師	
９－４ 生活と家事	4/28	3	山口　真紀	介護福祉士	
９－５ 快適な居住環境整備と介護	4/28	3	山口　真紀	介護福祉士	
９－６ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5/20	6	伊藤　愛生	介護福祉士	
９－７ 移動・移乗に関連したこころとからだのしくと自立に向けた介護	5/16 5/23	6 3	李沢　佳奈 李沢　佳奈	介護福祉士 介護福祉士	(株)グレート野々市研修センターD室
９－８ 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5/26	6	坂口　紀子	看護師	
９－９ 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5/24	6	宮森　弘美	看護師	
９－１０ 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5/27	6	宮森　弘美	看護師	
９－１１ 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5/10	6	宮森　弘美	看護師	
９－１２ 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	5/30	6	宮森　弘美	看護師	

③生活支援技術演習 ９－１３ 介護過程の基礎的理解 ９－１４ 総合生活支援技術演習 １０．振り返り １０－１ 振り返り １０－２ 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	 5/31 6/2 6/3 6/3	 6 6 2 2	 宮森　弘美 李沢　佳奈 李沢　佳奈 李沢　佳奈	 看護師 介護福祉士 介護福祉士 介護福祉士	 (株)グレート野々市研修センターD室

③　研修区分表

科目の細目	研修時間数			講　師 (通信の場合は添削担当講師)
	計	通学	通信	
１．職務の理解（６時間）				
多様なサービスの理解	3	3		宮本　志麻
介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		宮本　志麻
２．介護における尊厳の保持・自立支援（９時間）				
人権と尊厳を支える介護	4.5	3	1.5	宮本　志麻（守山　幸子）
自立に向けた介護	4.5	3	1.5	宮本　志麻（守山　幸子）
３．介護の基本（６時間）				
介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	1.5		宮本　志麻
介護職の職業倫理	1.5	1.5		宮本　志麻
介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1.5		宮本　志麻
介護職の安全	1.5	1.5		宮本　志麻
４．介護・福祉サービスの理解と医療との連携（９時間）				
介護保険制度	3	2	1	宮森　弘美（守山　幸子）
医療との連携とリハビリテーション	3	2	1	宮森　弘美（守山　幸子）
障害者自立支援制度およびその他制度	3	2	1	宮森　弘美（守山　幸子）
５．介護におけるコミュニケーション技術（６時間）				
介護におけるコミュニケーション	3	3		伊藤　愛生
介護におけるチームのコミュニケーション	3	3		伊藤　愛生
６．老化の理解（６時間）				
老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	3		宮森　弘美
高齢者と健康	3	3		宮森　弘美

７．認知症の理解（６時間）				
認知症を取り巻く状況	1.5	1.5		山口　真紀
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	1.5		山口　真紀
認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5	1.5		山口　真紀
家族への支援	1.5	1.5		山口　真紀
８．障害の理解（３時間）				
障害の基礎的理解	1	1		李沢　佳奈
障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	1		李沢　佳奈
家族の心理、かかわり支援の理解	1	1		李沢　佳奈
９．こころとからだのしくみと生活支援技術（７５時間）				
介護の基本的な考え方	4	2	2	坂口　紀子（守山　幸子）
介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	2	2	坂口　紀子（守山　幸子）
介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	2	2	坂口　紀子（守山　幸子）
生活と家事	3	3	0	山口　真紀
快適な居住環境整備と介護	3	3	0	山口　真紀
整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	伊藤　愛生
移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立	6	6	0	李沢　佳奈
に向けた介護	3	3	0	李沢　佳奈
食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	坂口　紀子
入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	宮森　弘美
排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	宮森　弘美
睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	宮森　弘美
死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	6	6	0	宮森　弘美
介護過程の基礎的理解	6	6	0	宮森　弘美
総合生活支援技術演習	6	6	0	李沢　佳奈
１０．振り返り（４時間）				
振り返り	2	2	0	李沢　佳奈
就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	2	0	李沢　佳奈

④　指導者数

７名

（２）課程編集者責任者

西沢瑞香

（３）研修カリキュラム

科目の細目	講義と演習の実施方法
１．職務の理解（通学：6 時間）	
多様なサービスの理解 （3 時間）	介護保険サービス（居宅・施設）や介護保険外サービスについての講義を行い、多様なサービスについてＤＶＤを視聴し理解を深める。
介護職の仕事内容や働く現場の理解 （3 時間）	居宅・施設サービスの仕事内容を説明し、事例に基づいて介護サービス、環境の現状等を理解する。
２．介護における尊厳の保持・自立支援（計 9 時間　通学：6 時間　通信：3 時間）	
人権と尊厳を支える介護 （4.5 時間）	人権の定義を説明、その背景としてＱＯＬ、ＡＤＬ、ノーマライゼーションの理解、事例に基づいたＱＯＬ向上についての講義を行う。
自立に向けた介護 （4.5 時間）	自立支援の理念とは何か、事例をいくつか取り上げて「生きがい」「できること」「できるようになりたい」そう思える意欲を引き出すような支援について意見を出し合う。
３.介護の基本（通学：6 時間）	
介護職の役割、専門性と多職種との連携 （1.5 時間）	生活の場を支える介護者としての専門性と様々な職種・それぞれの専門性を説明し、連携の必要性を理解する。
介護職の職業倫理 （1.5 時間）	日本介護福祉士会倫理綱領を読み、事例を用い介護職に必要な倫理をグループワークで考える。
介護における安全の確保と リスクマネジメント（1.5 時間）	サービス提供時の事故や感染の予防について、事例を用い対処法・安全対策を理解する。
介護職の安全 （1.5 時間）	介護職の健康と安全について、こころと身体の両面で考え、こころのケアについて学習し理解を深める。
４．介護・福祉サービスの理解と医療との連携（計 9 時間　通学：6 時間　通信：3 時間）	
介護保険制度 （3 時間）	介護保険制度の目的・サービス利用の流れを説明し、家族が要介護状態になったらどこに相談するか、どのような手続きを行えばよいか、事例に基づきディスカッションを行う。
医療との連携とリハビリテーション （3 時間）	医療機関との連携、リハビリテーション、医行為と介護について講義し、介護職員が行える医行為について学習し理解を深める。

障害者自立支援制度およびその他制度 （3 時間）	ＩＣＦ、障害者福祉の理念、ノーマライゼーションについて講義し、障害者の生活を支援する介護・福祉サービス制度を理解する。
５．介護におけるコミュニケーション技術（通学：6 時間）	
介護におけるコミュニケーション （3 時間）	介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割を理解した上で、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術について説明する。
介護におけるチームの コミュニケーション（3 時間）	多職種・複数人数の介護職員がチームとして関わる記録・報告・連絡・相談など情報の共有化の重要さを学び、事例を用い報告書の作成を行う。
６.老化の理解（計 6 時間　通学：3 時間　通信：3 時間）	
老化に伴うこころとからだの変化と日常 （3 時間）	加齢老化に伴う心身の変化や疾病について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明する。
高齢者と健康 （3 時間）	老化に伴う心と体の変化について日常生活においてどんな介護が必要になるのかについてディスカッションを行う。
７．認知症の理解（通学：6 時間）	
認知症を取り巻く状況 （1.5 時間）	認知症ケアの理念を確認後、なぜ周囲の人が困るかを説明し、そこから本当に困っている人は誰か？何か？を認知症を抱えた方であることにつなげ、何も出来ない人ではないということを学習する。
医学的側面から見た認知症の 基礎と健康管理（1.5 時間）	認知症の概念、医学的側面からみた状態を説明し、障害がおこるとどう変化するか理解する。
認知症に伴うこころとからだの 変化と日常生活（1.5 時間）	中核症状とＢＰＳＤを説明、実際にもし自分にその様な症状がおこったら、どう行動するかを考え、対処方法や関り方を学ぶ。
家族への支援 （1.5 時間）	介護家族の負担感、困ることをグループワークであげたあと、家族へ支援について理解を深める。
８．障害の理解（通学：3 時間）	
障害の基礎的理解 （1 時間）	障害はマイナスではないという概念を説明、障害者福祉にＩＣＦの視点を取り入れる重要性について理解する。
障害の医学的側面、生活障害、 心理・行動の特徴、 かかわり支援等の基礎的知識（1 時間）	様々の障害において夫々の疾病や症状に対し、その病態や予防対策など医学的に説明する。
家族の心理、かかわり支援の理解 （1 時間）	障害者(児)の家族支援は、その家族の心理をよく理解し受容することであり、介護負担の軽減について意見を出し合い、家族にも寄り添うことの重要性を理解する。

９.こころとからだのしくみと生活支援技術（計 75 時間　通学：69 時間　通信：6 時間　）	
介護の基本的な考え方 （4 時間）	要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護の方法、留意点、根拠等について理解し、理論に基づく介護の必要性を学習する。
介護に関するこころのしくみの 基礎的理解（4 時間）	介護に必要なこころのしくみの基礎的な知識を理解し、人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて学習する。
介護に関するからだのしくみの 基礎的理解（4 時間）	介護に必要なからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れと共に理解し、具体的な身体の各部の名称や機能等を学習する。
生活と家事 （3 時間）	その方の生活暦を知り、その方らしさを大切にしながら援助に必要な技術と知識を学習し、生活支援の家事サービスについて具体例をグループ討議する。
快適な居住環境整備と介護 （3 時間）	快適な生活を送るために必要な居住環境の整備や利用者が生活の各場面で活用できる福祉用具（機器）を説明し理解した上、事例に基づき高齢者・障害者特有の居住環境整備について意見を出し合う。
整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（6 時間）	利用者のアクティブな気持ちを引き出し支える基本的知識をテキストとＤＶＤで説明し、イメージした上で事例演習を行う。
移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（9 時間）	安全で安楽な介護を行うために必要な基本的知識をテキストとＤＶＤで説明し、イメージした上で事例演習を行う。
食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（6 時間）	安全で楽しく食べるために必要な基本的知識をテキストとＤＶＤで説明し、イメージした上で事例演習を行う。
入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 （6 時間）	きれいで生活が送れるような介護に必要な基本的知識をテキストとＤＶＤで説明し、イメージした上で事例演習を行う。
排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護（6 時間）	すっきり爽快になる介護に必要な基本的知識をテキストとＤＶＤで説明し、イメージした上で事例演習を行う。
睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 （6 時間）	ゆっくり気持ちよく休められる介護に必要な基本的知識をテキストとＤＶＤで説明し、イメージした上で事例演習を行う。
死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 （6 時間）	死に行く人の尊厳と家族ケアを医療と連携しケアする基本的知識をテキストとスライドで事例を用いて説明する。その後、「死生観」についてグループワークを行い発表する。

介護過程の基礎的理解 （6 時間）	チームケアのメンバーとして、介護過程の展開ができるようにテキストとスライドで説明し、グループで事例を展開し発表する。
総合生活支援技術演習 （6 時間）	テキストの事例集を参考にグループ毎に検討し、介護手順を確認した上で実技を行う。 その後、グループで演習内容に沿って話し合い、介護場面毎に考察する。
１０.振り返り（通学：4 時間）	
振り返り （2 時間）	個別に全過程の学びを振り返り、その学びに基づいた講義・ディスカッションを行う。
就業への備えと研修修了後における継続的な研修（2 時間）	チームケアを実施する上で、専門職としての自分自身を向上させるための、Ｏｆｆ－ＪＴ,ＯＪＴの取り組み事例を紹介し理解を深める。
合計	130 時間

（４）通信課題

提出回	科目の細目	科目の細目ごとの提出期限
第 1 回	9-1　介護の基本的な考え方 9-2　介護に関するこころのしくみの基礎的理解 9-3　介護に関するからだのしくみの基礎的理解	令和 4 年 4 月 25 日
第 2 回	2-1　人権と尊厳を支える介護 2-2　自立に向けた介護	令和 4 年 5 月 9 日
第 3 回	4-1　介護保険制度 4-2　医療との連携とリハビリテーション 4-3　所為会社自立支援制度およびその他制度	令和 4 年 5 月 19 日

※通信課題は、中央法規出版の通信教材を使用する。

（５）終了評価の方法

評価項目	評価方法	評価者	時期
修了評価	●筆記試験	筆記試験 担当講師	全科目終了後

生活支援技術の修得評価	●評価シートを使用した個別評価 ●受講態度・意欲　等	該当科目 担当講師	技術演習 期間中

（６）添削指導方法および認定方法

添削指導方法

①研修開始日に、すべての通信課題を受講者に配付する。

②通信課題の提出期日は、科目（細目）ごとに定める

③提出期日は通学日程に合わせて設定し、原則持参による提出とする。

④各科目（細目）の通信課題指導講師が、各設問の正誤判定と、添削指導を行う。

⑤課題返却日は、科目（細目）ごとに通学日程に合わせて設定し、原則として手渡しにより添削後の返却を行う。

⑥通学日において、休憩時間等を利用して、講義演習担当講師が質疑応答に対応する。

通信課題の認定方法

①通信課程における全ての課題を提出し、担当講師による正誤判定と添削指導を受けた者について、通信課程修了と認定する。

②ただし、習得度・理解度が著しく不足していると弊社が判断した場合は、課題の再提出または通学による補講を指示することがある。その場合、習得度・理解度が一定水準に達したと認められた時点で、通信課程修了と認定する。

３．講師情報

講師名	略歴・現職	資　格
宮森　弘美	・看護職（現職） ・弊社介護員養成講座非常勤講師	・看護師
坂口　紀子	・看護職（現職） ・弊社介護員養成講座非常勤講師	・看護師
守山　幸子	・看護職 ・弊社介護員養成講座非常勤講師	・看護師
伊藤　愛生	・介護職 ・弊社介護員養成講座非常勤講師	・介護福祉士

山口　真紀	・介護職（現職） ・弊社介護員養成講座非常勤講師	・介護福祉士
宮本　志麻	・介護職 ・弊社介護員養成講座非常勤講師	・介護福祉士
李沢　佳奈	・介護職（現職） ・弊社介護審養成講座非常勤講師	・介護福祉士

４．実績情報

①過去の研修実施回数＜過去３年間＞

Ｈ３１・Ｒ１年度：４回＜介護職員初任者研修＞

Ｒ２年度：５回＜同上＞

Ｒ３年度：７回＜同上＞

② 過去の研修延べ参加人数＜過去３年間＞

Ｈ３１年度・Ｒ１年度：２６名＜介護職員初任者研修＞

Ｒ２年度：３９名＜同上＞

Ｒ３年度：５７名＜同上＞

５．連絡先等

①申し込み・資料請求先

株式会社グレート　TEL 076-262-9010

②法人の苦情対応者名・役職・連絡先

③事業所の苦情対応者名・役職・連絡先

西沢瑞香（特命課）、TEL 076-262-9010